MEIJO Q&A

経営学部 経営学科

Q 企業が競争力を維持したり高めたりするために大切な要素って何？

A 企業が持つ技術の優劣よりも、企業と製品の相性や企業間の関係性が鍵を握ります。

日本企業の自動車産業が強さを維持するのに対し、国際的な争いが激化する産業もある。その違いとは？

2000年代以降、製造業の産業構造は大きく変化してきました。しかし一言で製造業といっても、企業の競争力の変化には産業によって異なった様子も見られます。自動車産業においては、依然として日本企業が競争力を維持しているのに対し、電子産業では日本メーカーのシェアは激減し、激しい国際市場争いに巻き込まれています。例えばテレビ市場です。かつて日本の主要メーカーは家電量販店で圧倒的な存在感を放っていましたが、現在、世界のテレビ市場に目を向ければ、韓国や中国メーカーが勢いづいています。この勢力図の変化に影響を及ぼす要素として着目しているのが、「製品設計の複雑さ」です。自動車と昔のテレビ（ブラウン管テレビ）はどちらも「擦り合わせ（インテグラル）型」の製品でしたが、2000年代以降、テレビ（液晶テレビ）は「組み合わせ（モジュラー）型」に変化していきました。

依然として高い技術を持っている日本の製造業、自前主義からの脱却が求められる。

一つひとつの部品が相互調整をしあい、製品全体としての完成度を高める「インテグラル型」製品では、調整能力を得意とする日本企業が依然として高い競争力を維持しています。一方で、部品間の調整はあまり必要なく、パソコンのように部品を寄せ集めるだけでつくれる「モジュラー型」製品では、日本企業の存在感が薄れている傾向があります。ブラウン管から液晶パネルへと移行したテレビをはじめ、自社工場を持たずに他社から部品を調達するAppleのスマートフォンや電気自動車などがその一例です。

今後、さらに激化する競争を勝ち抜くためには、自分達が得意とする部分を維持・強化することも重要ですが、自分達の弱い部分については、供給企業、競合企業や異業種の他社とのネットワーク構築で補完することが鍵を握ります。技術転換の時機が訪れた際、自社単独のみで対応するのではなく、企業・産業・国境を超えた連携に基づくイノベーションが求められているのです。

閔 承基 先生
Min Seungkee

韓国の大学に在学中、軍隊に入隊しました。1年間読書を制限されたことから知的渇望が高まり、兵役後は図書館にこもる日々。知識を吸収し、理解する喜びを再認識し、大学院への進学を決意します。中学生の頃はつくば市に住んでいました。

お気にいりアイテム

日本のもの造り哲学

研究者の道を歩む原点となった、東京大学ものづくり経営研究センター長（当時）・藤本隆宏先生著『日本のもの造り哲学』。大学3年時に韓国語版を読み、感銘を受けたことがきっかけで東京大学大学院への進学を決意。すべての始まりとなった1冊です。